

# 芦田川水系・王子川水系河川整備計画(変更原案) 住民説明会

平成27年12月16日(木)19:00～



芦田川



王子川

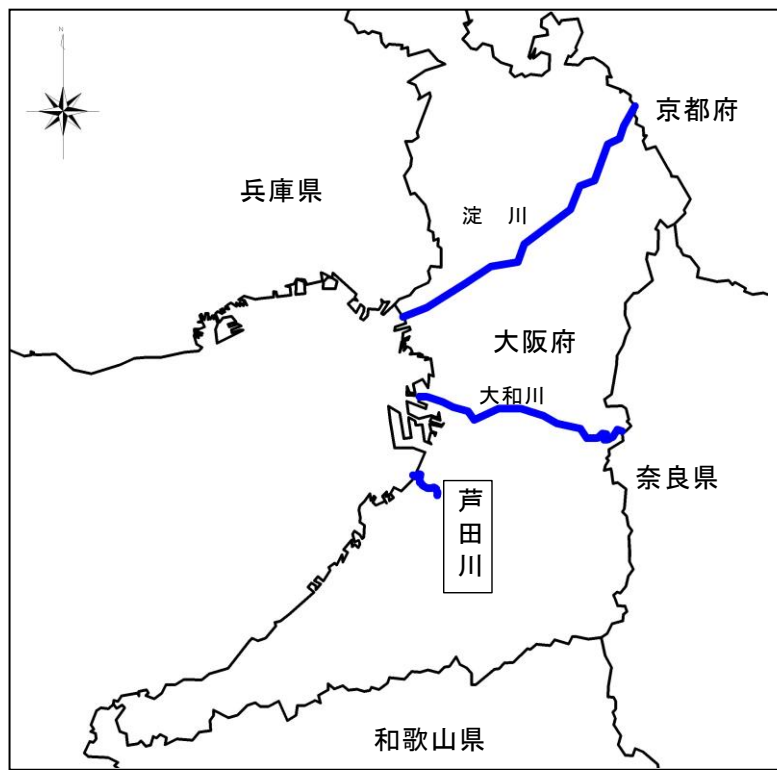


# 1. それぞれの流域について

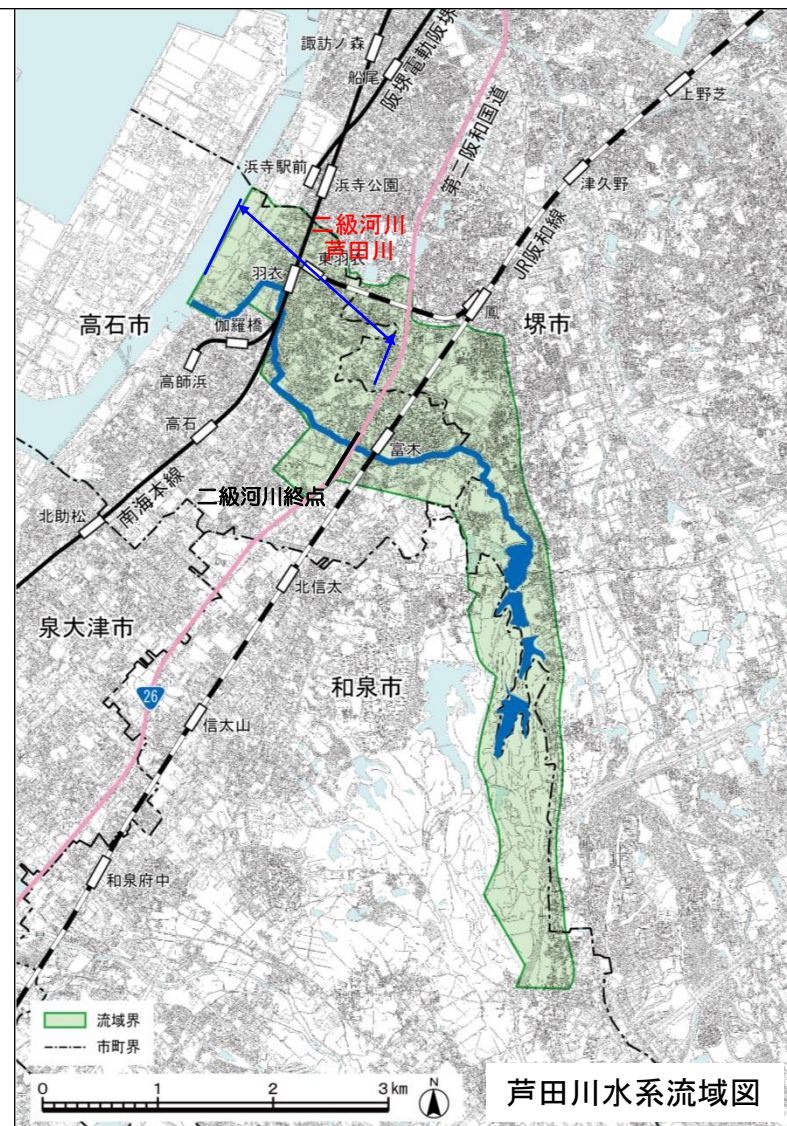
# 1-1. 芦田川流域の概要

- 芦田川水系は、二級河川芦田川を主流としている二級水系です。
- 芦田川は、流域面積は6.68km<sup>2</sup>、流路延長5.1km（うち芦田川分水路含む二級指定区間延長は約3.02km）で、和泉市小野町の段丘地に源を発し、大阪湾に注いでいます。
- 流域は、大阪府高石市、堺市、和泉市にまたがっています。

河川名	二級河川 指定延長 (分水路含む)	流域面積
芦田川	3.02km	6.68km <sup>2</sup>



芦田川水系位置図



芦田川水系流域図

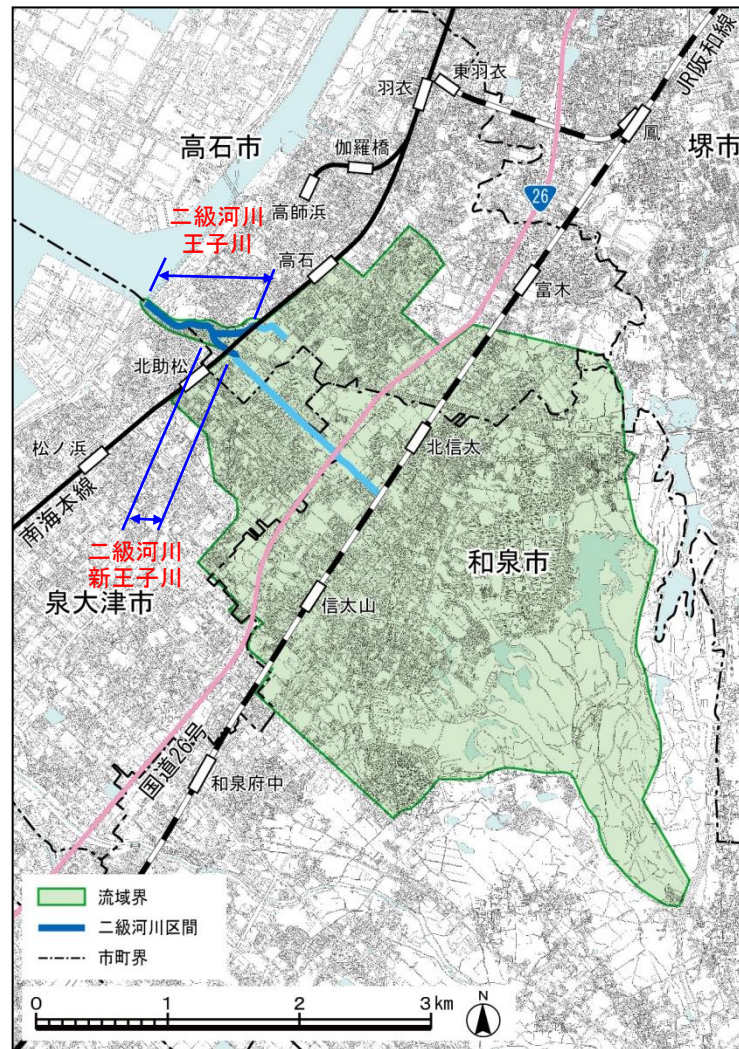
# 1-2. 王子川流域の概要

- 王子川水系は、二級河川王子川、二級河川新王子川の2河川からなる二級水系です。
- 王子川は、流域面積は約1.80km<sup>2</sup>、二級指定区間延長は約1.0kmで、和泉丘陵に源を発し、大阪湾に注いでいます。
- 新王子川は、流域面積は約11.00km<sup>2</sup>、二級指定区間延長は約0.5kmで、河口から上流0.2km付近で王子川に合流しており、府道泉大津美原線の道路下に敷設されたボックスカルバートの河川です。
- 流域は、大阪府高石市、泉大津市、和泉市の三市にまたがっています。

河川名	二級河川指定延長	流域面積
王子川	1.0km	1.80km <sup>2</sup>
新王子川	0.5km	11.00km <sup>2</sup>
合計	1.5km	12.80km <sup>2</sup>



王子川水系位置図



## 2. 河川整備計画とは

## 2. 河川整備計画とは

### 【河川整備基本方針とは】

○将来の川のあるべき姿や、河川整備の長期的な基本となる方針（治水・利水・環境）を定めたものです。

### 【河川整備計画とは】

○河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたものです。

※河川法により、河川管理者は、河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされています。

芦田川水系では、平成25年3月に河川整備基本方針、平成25年11月に河川整備計画を策定。  
王子川水系では、平成20年2月に河川整備基本方針、平成20年12月に河川整備計画を策定。

### 3. それぞれの河川整備計画 の変更について

# 芦田川

### ○治水対策

平成22年6月に本府において策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、当面の治水目標及び治水手法について審議を行った結果、

- 河口部～二層河川区間(2km)：  
「時間雨量80ミリへの対応は完成済」
- 二層河川区間上流～国道26号：  
当面の治水目標は「時間雨量50ミリ」、治水手法は「河道改修」

平成25年11月 芦田川水系河川整備計画 策定【現行の計画】

### ○平成23年3月の東日本大震災を契機に、南海トラフ巨大地震に対する照査を実施

- 芦田川水門：  
L2(レベル2)地震動、L2(レベル2)津波への対策が必要。
- 芦田川排水機場：  
L2(レベル2)地震動に対して、排水機場としての機能を応急復旧により速やかに回復できる性能を確保することが必要。

➡ これらの審議経過を現行の計画に反映します。



## 王子川

平成20年12月 王子川水系河川整備計画 策定【現行の計画】

### ○治水対策

平成22年6月に本府において策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、当面の治水目標及び治水手法について審議を行った結果、

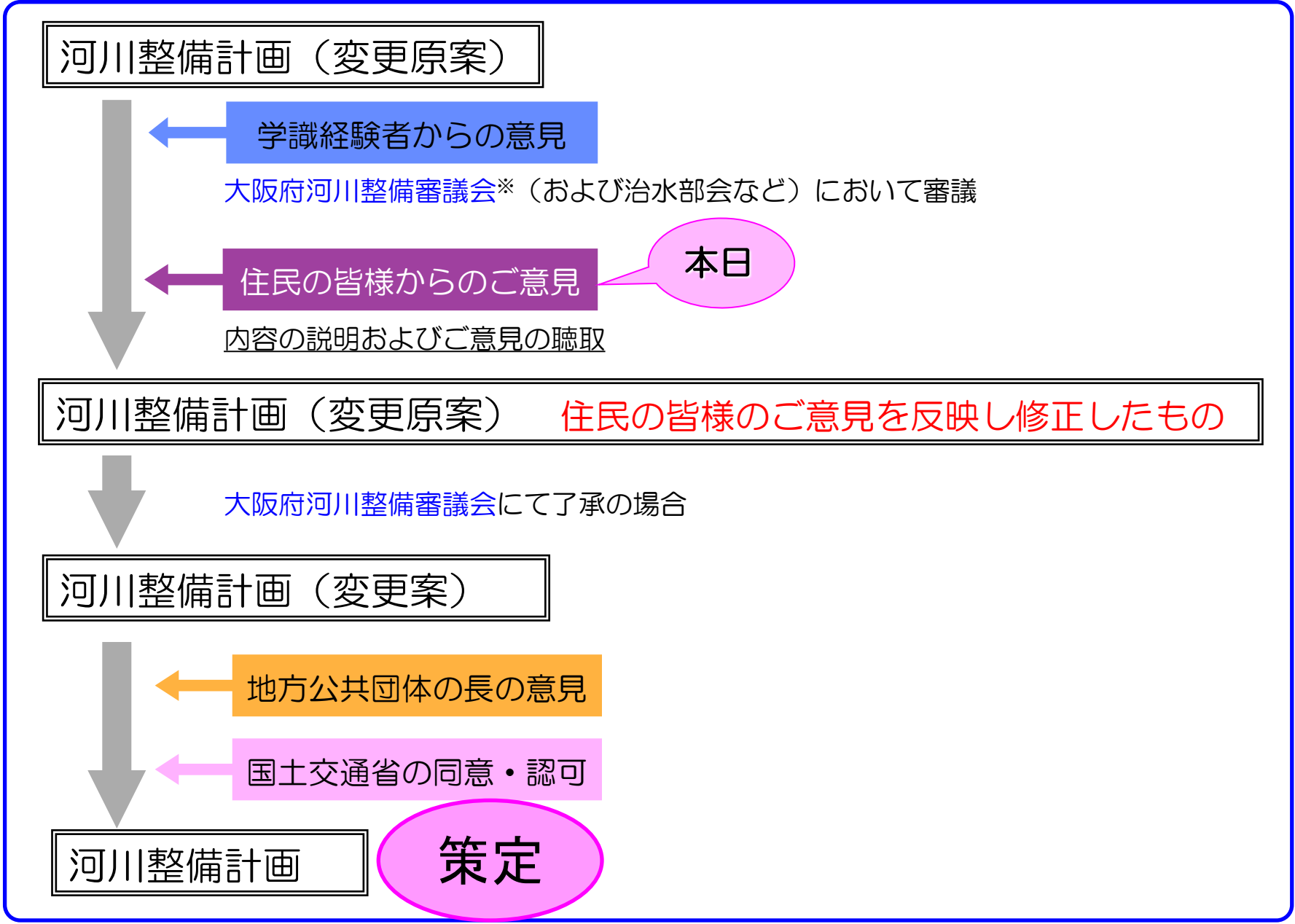
- 王子川及び新王子川：  
当面の間、目標とすべき治水レベルに達しているため「現状維持」

### ○平成23年3月の東日本大震災を契機に、南海トラフ巨大地震に対する照査を実施

- 王子川水門：  
L2(レベル2)津波への対策が必要。
- 王子川排水機場：  
L2(レベル2)地震動に対して、排水機場としての機能が応急復旧等により速やかに回復できる性能を確保する必要があります。

➡ これらの審議経過を現行の計画に反映します。

### 3-3. 河川整備計画策定のフロー



## 4. 大阪府の新たな治水対策とは

## 4-1. 今後の治水対策の進め方（H22.6策定）

【基本的な理念】 人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1) 現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2) 「逃げる」「凌ぐ」施策を強化するとともに、「防ぐ」施策を着実に実施する。
- (3) 府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

【当面の治水目標（今後20～30年）の設定】

○時間雨量50ミリ程度※<sup>1</sup>の降雨で床下浸水を発生させない。かつ、事業効率等を考慮し、時間雨量65ミリ程度※<sup>2</sup>もしくは時間雨量80ミリ程度※<sup>3</sup>の降雨で床上浸水を発生させない。

【河川情報の提供】

○住民が的確に避難行動がとれるよう、河川氾濫や浸水に対する情報提供に努める。

- ※1 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨
- ※2 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨
- ※3 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

## 4-2. 将来計画（長期計画）

○府管理の全河川について、時間雨量80ミリ程度※<sup>3</sup>の降雨でも、川があふれて、家が流され、人が亡くなるようなことをなくす。

# 4-3. 総合的・効果的な治水手法の組合せ

地先の危険度  
低減に向けた

## 総合的・効果的な治水手法の組合せ

### 流出抑制

雨が降っても河川へ出る水量を減らす。  
(家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用など)

### 治水施設の保全・整備

河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避するなど、  
河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。  
(河川改修・堆積土砂除去など)

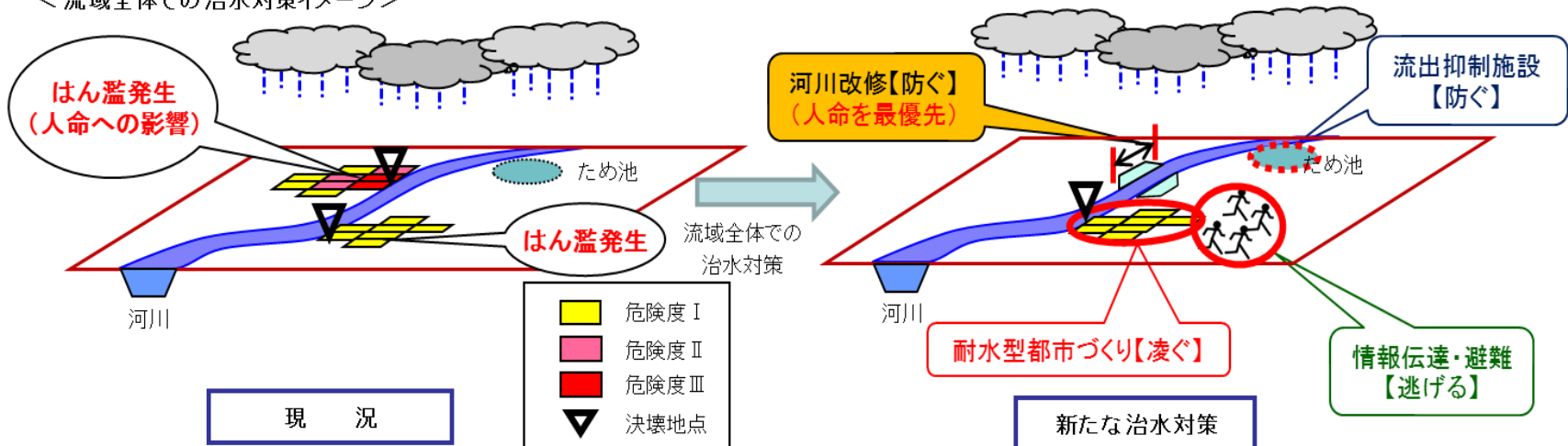
### 耐水型都市づくり

河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。  
(家屋の耐水化・高床化などの促進)

### 情報伝達・避難

河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。  
(洪水はん濫・浸水による危険性の周知、流域市と連携した避難体制づくりの促進など)

<流域全体での治水対策イメージ>



## 5. 芦田川水系河川整備計画（変更原案） について

## 5. 芦田川水系河川整備計画（変更原案）の内容について

### 第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の対象区間
5. 河川整備計画の対象期間
6. 本計画の適用

### 第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

### 第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

第2節 河川情報の提供に関する事項

第3節 その他河川整備とともに勘案する事項

# 5-1. 芦田川流域の現状について

## (1) 流域の特性

- 気候は、温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属し、年平均降水量は全国平均と比較して少ないです。
- 芦田川下流域から中流域は市街地となっており、芦田川は都市部の貴重な水辺空間となっています。

- 魚類：コイ、ボラ、ドジョウ、オオクチバスなど
- 甲殻類：スジエビ
- 鳥類：アオサギ、ハクセキレイなど
- 植物：（下流域）ギシギシ、ヨモギなど、（中流域）ツルヨシ、ススキ、ソメイヨシノなど





# 5-1. 芦田川流域の現状について

## (2) 河川の特徴

河口部



下流部 (本川部)



### 《河口部》

- ・ 高潮対策事業による防潮水門が設置されています。
- ・ 両岸にはコンクリート構造の堤防が整備されています。

下流部 (ショートカット区間)



中流部①



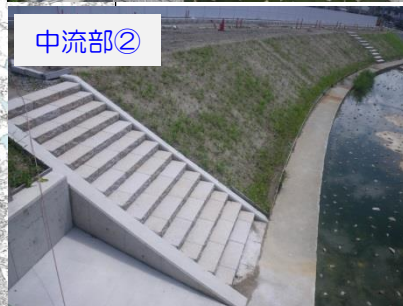
### 《下流部》

- ・ コンクリートの三面張水路となっています。
- ・ 民家が連っており水路といった印象が強くなっています。

JR阪和線・大阪和泉泉南線間



中流部②



### 《中流部》

- ・ コンクリートブロック積やコンクリートの三面張水路となっています。
- ・ 高石市第4次総合計画の基本構想において市民が集い楽しめる機能の充実を図る地域として位置付けられており、整備中です。

上流部 (ため池)

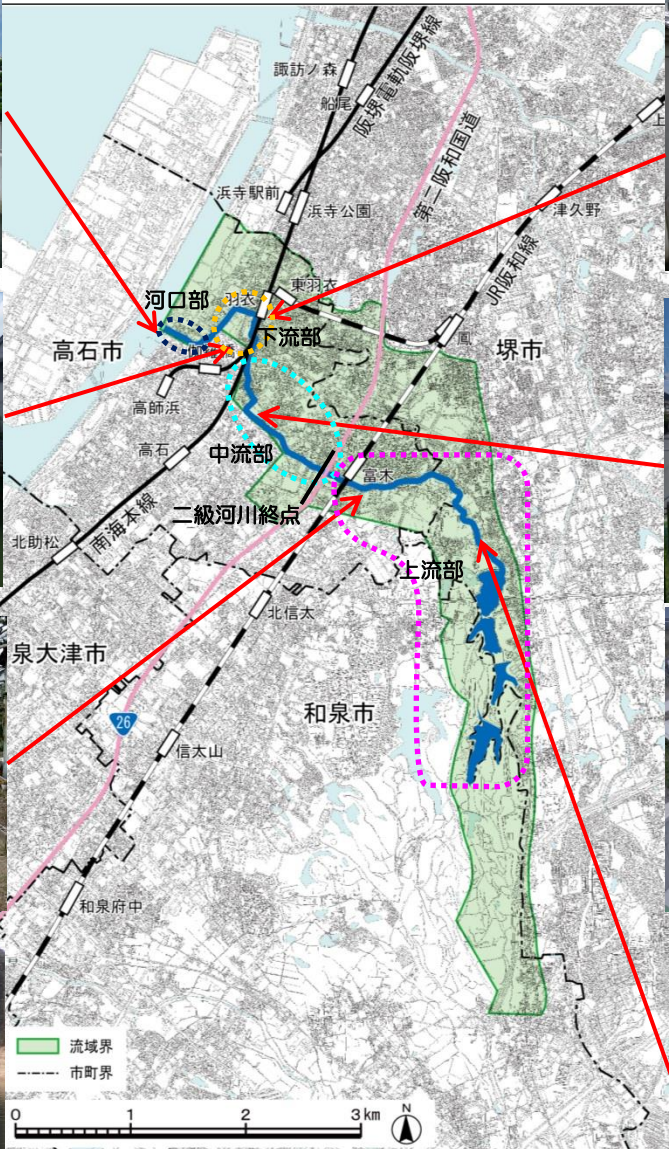


上流部  
(大阪和泉泉南線間より上流河道)



### 《上流部》

- ・ コンクリートの三面張水路となっています。
- ・ ため池が多く連なっています。



写真出典：二級河川芦田川外多自然型護岸検討委託報告書（大阪府，平成13年）

## 5-2. これからの芦田川流域での取組みについて

### (1) 流域の将来像

高石市第4次総合計画＝市民主体のやさしさと活力あふれる”健幸”のまち

- ・環境美化を進めるまちづくり
- ・身近に水とみどりを感じるまちづくり

大阪21世紀新環境総合計画

- ・温室効果ガスの排出量を削減します。
- ・資源の循環的利用の促進を図ります。
- ・大気・水環境の改善を行います。
- ・環境リスクの高い化学物質を管理します。
- ・生物の生息環境を保全します。
- ・都市の魅力と活力の向上などへの取組みを行います。
- ・豊かな環境の保全と創造が目標とされています。

芦田川を安全で快適な水辺空間とするため

- ・治水安全度の向上を図る河川改修や洪水調節施設などの整備を進めます。
- ・住民参加による水辺空間の活用や積極的な緑化を推進します。
- ・安心して人がふれあえる川づくりに向けた流域住民との連携を図ります。
- ・植生を利用した河川の水質浄化などに取組みます。
- ・府民生活に安らぎと潤いを与える空間を創出していくことが望まれています。

## 5-2. これからの芦田川流域での取組みについて

### (2) 治水の現状と課題・目標・実施

	現状と課題	目標	実施
洪水	<ul style="list-style-type: none"><li>◆<u>河口部から二層河川区間</u>： 時間雨量80ミリへの対応のため整備中で平成29年3月完成予定です。</li><li>◆<u>二層河川区間上流端から国道26号まで</u>： 時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅰが発生します。</li></ul>	<u>二層河川区間上流端から国道26号まで</u> ： 時間雨量50ミリ程度の降雨が安全に流下することを当面の治水目標として河川整備を行います。	
高潮	<ul style="list-style-type: none"><li>◆<u>伊勢湾台風規模の超大型台風が室戸台風のコースを通過して、満潮時に来襲した場合を想定した高潮</u>： 安全に対処できる対策（防潮水門、排水機場）が完成しています。</li></ul>		現状維持

## 5-2. これからの芦田川流域での取組みについて

### (2) 治水の現状と課題・目標・実施

	現状と課題	目標	実施
地震	<p>◆「南海トラフ巨大地震」の被害想定： 芦田川水門・芦田川排水機場の耐震補強を着実に推進していく必要があります。</p>	<p>◆L1（レベル1）地震動※1 引き続き現状を維持</p> <p>◆L2（レベル2）地震動※2</p> <p>○芦田川水門 地震後においても水門の開閉の機能を保持することを目標</p> <p>○芦田川排水機場 地震後に排水機場としての機能が応急復旧により速やかに回復できることを目標</p>	<p>◆L2（レベル2）地震動</p> <p>○芦田川水門 水門としての機能を保持する性能を確保</p> <p>○芦田川排水機場 排水機場としての機能を応急復旧により速やかに回復できる性能を確保</p>
津波	<p>◆「南海トラフ巨大地震」の被害想定： 芦田川水門の津波波力への対策を着実に推進していく必要があります。</p>	<p>◆L1（レベル1）津波※3 防御できる整備がなされており、引き続き現状を維持</p> <p>◆L2（レベル2）津波※4 施設の流出等による二次被害の発生を防ぐことを目標</p>	<p>◆L2（レベル2）津波来襲時 水門閉鎖によって水門が損傷した場合等でも流出による二次被害を防ぐ対策を実施</p>

※1 構造物の供用期間中に発生する確率が高い地震動。具体的な地震動を想定していませんが、従来の耐震設計で考慮されているレベルの地震動を想定しています。

※2 対象地点において現在から将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震動。

内陸直下型はマグニチュード7クラス、海溝型は南海トラフ巨大地震でマグニチュード9クラスと定義されています。

※3 発生頻度は最大クラスの津波〔L2（レベル2）津波〕に比べて高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波と定義され、百年から百数十年に一度の頻度で発生する東南海・南海地震（マグニチュード8クラス）による津波を想定しています。

※4 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波と定義され、千年に一度、もしくはそれ以上の間隔の頻度で発生する南海トラフ巨大地震（マグニチュード9クラス）による津波を想定しています。

## 5-2. これからの芦田川流域での取組みについて

### (3) 河川環境の現状と課題・目標・実施

	現状・課題	目標	実施
水質	<p>類型指定はされていませんが、水質汚濁に関する環境基準と比較すると、C～D類型に相当します。<u>生物の生息や親水性の向上の観点から見ると、更なる改善が必要です。</u></p>	<p>下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、より一層の改善を目指します。<u>河川で活動している地域住民やNPO等と連携した河川美化や、植生を利用した河川の水質浄化の取り組みなどにより、水質の改善を目指します。</u></p>	<p>高石市における行政指導や下水道施設整備・接続の促進とともに、地域住民、学校、NPO等と連携し、<u>河川への生活排水による河川への負担軽減に向けた環境学習、啓発活動等を進めることにより、更に水質の改善に努めます。</u></p>
水利用	<p>上水道用水や工業用水としての水利用はありませんが、<u>上流部の井堰より農業用水が取水されています。下水道普及率の上昇に伴う流量減少が懸念されます。</u></p>	<p>今後とも、<u>適正な水利用を目指します。</u></p>	<p>農業用水の取水実態の把握に努め、<u>河川の水質や景観及び動植物の生息・生育環境に十分配慮し、確保すべき流量の設定に向けて引き続きデータの蓄積に努めます。</u> 地域住民及び農業関係者との協議を通して、<u>流量の確保に努めます。</u></p>
空間利用	<p>河川空間の利用は、<u>河川規模が小さくコンクリートなどの三面張水路の単断面構造であるためほとんど見られませんが、河川に面した芦田川ふるさと広場は、地域住民に親しまれています。</u> また、<u>上流の鶴田池では併設するゴルフセンターによる一体利用が行われています。</u></p>	<p>関係機関や地域住民と連携し、<u>広場と河川を一体整備し、シンボリックな水辺空間を創造することで、川と人との豊かなふれあい活動の場の維持・形成を目指します。</u></p>	<p>“芦田川整備基本構想”を踏まえて、<u>すでに完成している芦田川ふるさと広場及び街路事業と一体的に整備し、水辺のレクリエーション空間・緑あふれる憩いの場・環境学習の場を創出します。</u></p>

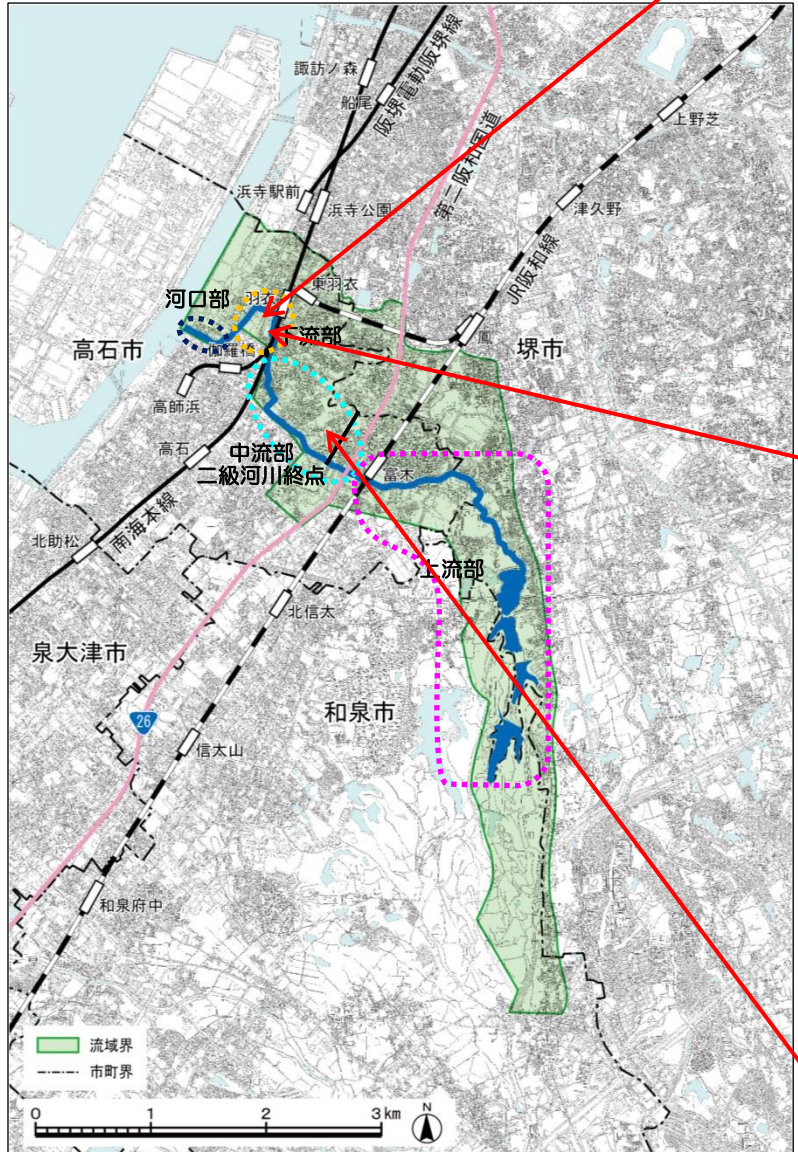
## 5-2. これからの芦田川流域での取組みについて

### (3) 河川環境の現状と課題・目標・実施

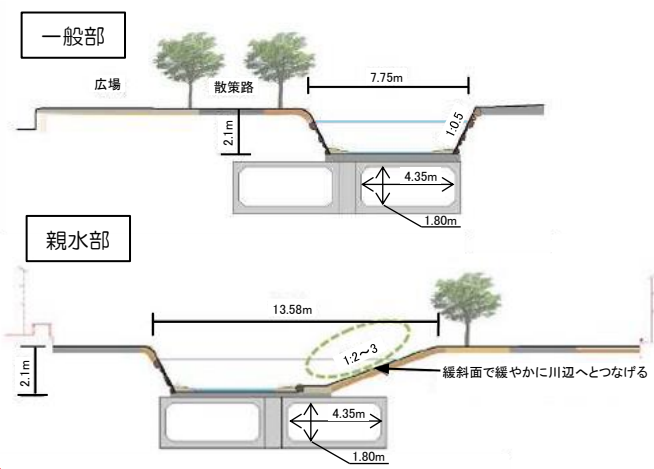
	現状・課題	目標	実施
自然環境	<p>貴重種を含めた水生生物等が生息しており、現存する自然環境について今後も保全する必要があります。</p> <p>また、三面張で植生に乏しく、単調な環境が多いため、空隙を有する生態系に配慮した護岸整備や、植生帯の整備を行う必要があります。</p> <p>芦田川の上流部のため池や河川特有の自然環境が残る箇所については、今後の維持管理等の際には、それらの保全について配慮する必要があります。</p>	<p>身近な自然環境にふれあえる水辺空間を創出する多自然川づくりを地域住民と連携して行います。</p> <p>瀬や淵、湿地などの河川特有の自然環境が残る箇所について、今後の維持管理等の際にはそれらの保全を目指します。</p>	<p>植生ブロック護岸による多自然川づくりを行うとともに、植生を利用した河川の水質浄化に取り組みます。</p> <p>外来種の無秩序な移植など、生態系に悪影響を及ぼすような行為については、外来生物法に基づき関係機関へ通知し、適正な指導と再発防止に努めます。</p> <p>施設の維持補修、堆積土砂を除去する際には、生物の生息環境の保全等自然環境に配慮しながら実施します。</p>
景観・親水性	<p>河口域には、高潮対策事業による防潮水門が設置され、両岸にはコンクリート構造の堤防が整備されています。</p> <p>下流域は、コンクリートの三面張水路で川幅が狭く、民家が連なっており水路といった印象が強くなっています。</p> <p>中流域においても、川幅が狭く人工的な水路といった印象が強くなっています。</p> <p>上流域は、コンクリートの三面張水路によりため池が多く連なっています。河川に面した芦田川ふるさと広場は地域住民に親しまれています。</p> <p>中流域においては、芦田川ふるさと川の整備計画が平成9年に策定されています。この計画と協働し、地域住民のニーズに応じて、更に親水性の向上を図るなどの配慮が必要です。</p>	<p>芦田川ふるさと川の整備計画と協働し、親水性の向上を目指します。</p>	<p>良好な景観の保全に努めます。</p> <p>地上部の河川整備については住民の意見をもとに策定された“芦田川整備基本構想”を踏まえて親水空間を創出します。</p> <p>管理用通路は“安全で快適な歩行空間”として整備します。</p> <p>まちづくりと一体整備が可能な区間については親水空間を創出します。</p>

# 5-2. これからの芦田川流域での取組みについて

住民のみなさんの意見をもとに策定された『芦田川整備基本構想』を踏まえて親水空間を創出します。



## ショートカット区間上流端～万成橋



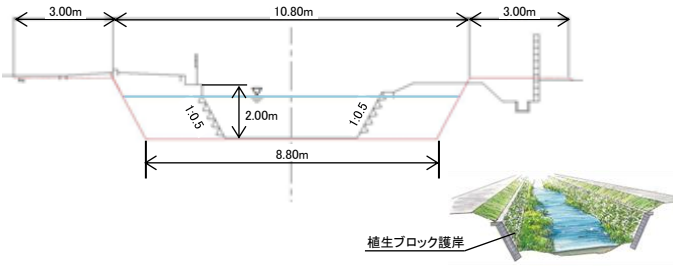
現状 (平成27年8月)

## 万成橋～二層河川区間上流端 (芦田川ふるさと広場)



現状 (平成27年8月)

## 二層河川区間上流端～国道26号

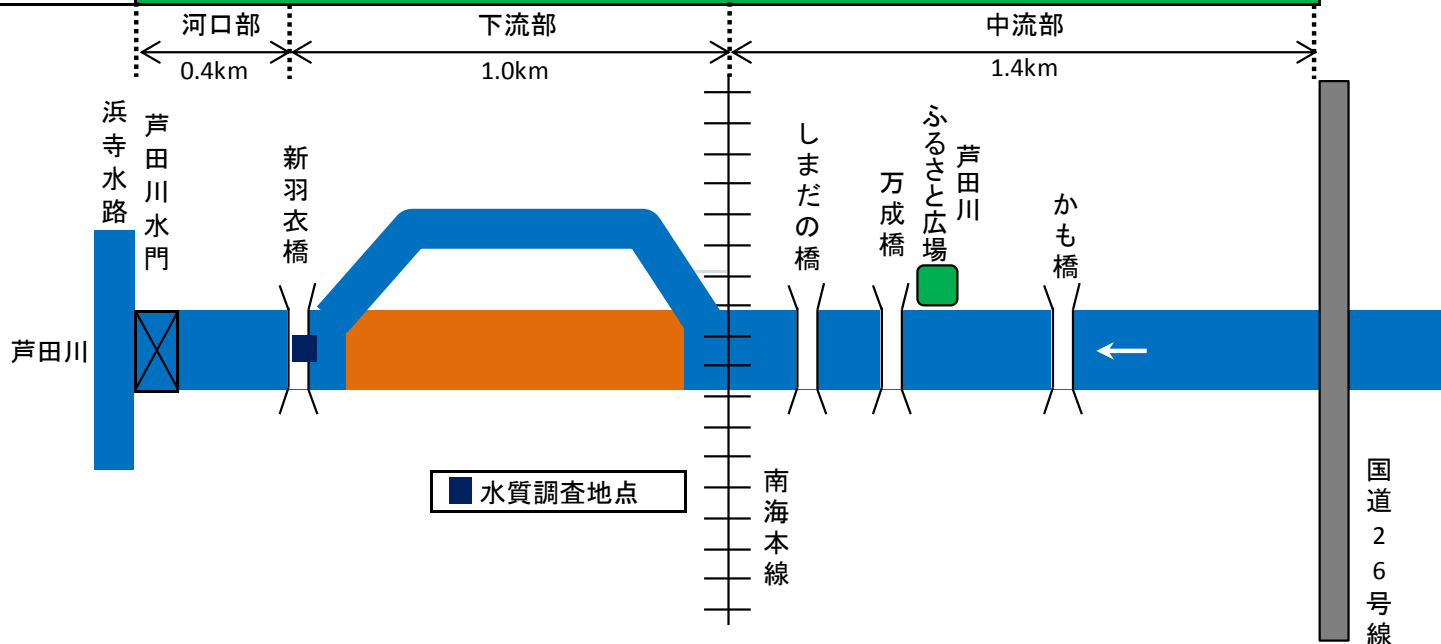


現状 (平成27年8月)

# 5-2. これからの芦田川流域での取組みについて

## (4) 河川の維持管理対象施設と実施内容

河川	施設	実施内容		
芦田川	特殊堤(パラペット)			
	護岸	施設の定期点検・緊急点検の実施 地域住民への点検結果の公表 被災した際の応急的な対策及び速やかな機能回復		
	河道	土砂堆積の定期調査と 計画的な維持管理・対策	地下部のボックスカルバートの設置 地上部の河川整備	現況河川の拡幅
	その他	管理用道路の整備 河川整備に伴う橋梁の架替工事		
	許可工作物	河川管理施設と同等の点検及び維持、修繕の実施		
	河川空間の管理	河川美化活動や環境学習の促進。河川巡視・監視体制の重層化。河川美化活動等の実施。		





# 5-2. これからの芦田川流域での取り組みについて

## (4) 河川の維持管理対象施設と実施内容



- 《河口～国道26号》
- 対策
- 1 河川管理施設の定期点検・必要に応じた緊急点検
  - 2 地域住民への点検結果の公表
  - 3 許可工作物の適切な点検・維持修繕の周知徹底
  - 4 河川カルテの作成
  - 5 計画的な堆積土砂の撤去 など。

- 《芦田川防潮水門・芦田川排水機場》
- 対策
- 施設の老朽化による信頼性の低下に対する大規模補修、部分更新の実施



河川巡視点検の様子(H25)  
出典：点検調書（河川巡視点検）

河川巡視点検の様子(H25)  
出典：点検調書（河川巡視点検）

### (5) 地域や関係機関との連携

- 流出抑制に積極的に取り組みます
  - 治水へのため池の活用手法を検討
  - 調整池等の流出抑制施設を恒久的に存続させる制度を検討
  - 家屋の耐水化の検討
- 地域や関連機関との連携による河川巡視・管理体制を強化します
- 河川愛護精神の醸成に努めます

### (6) 河川情報の提供

- 河川氾濫や浸水に対して
  - 現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
  - 必要な情報の提供・伝達（洪水リスク図、地域単位のワークショップ等）
  - 住民の防災意識の醸成
  - ホームページ、地上波デジタル放送等での情報提供

### (7) その他河川整備とともに勘案する事項

- 河川管理用通路の整備について
  - 安全性に配慮
  - 快適な空間づくり

## 6. 王子川水系河川整備計画（変更原案） について

## 6. 王子川水系河川整備計画（変更原案）の内容について

### 第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の対象区間
5. 河川整備計画の計画対象期間
6. 本計画の適用

### 第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

### 第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

第2節 河川情報の提供に関する事項

## 6-1. 王子川流域の現状について

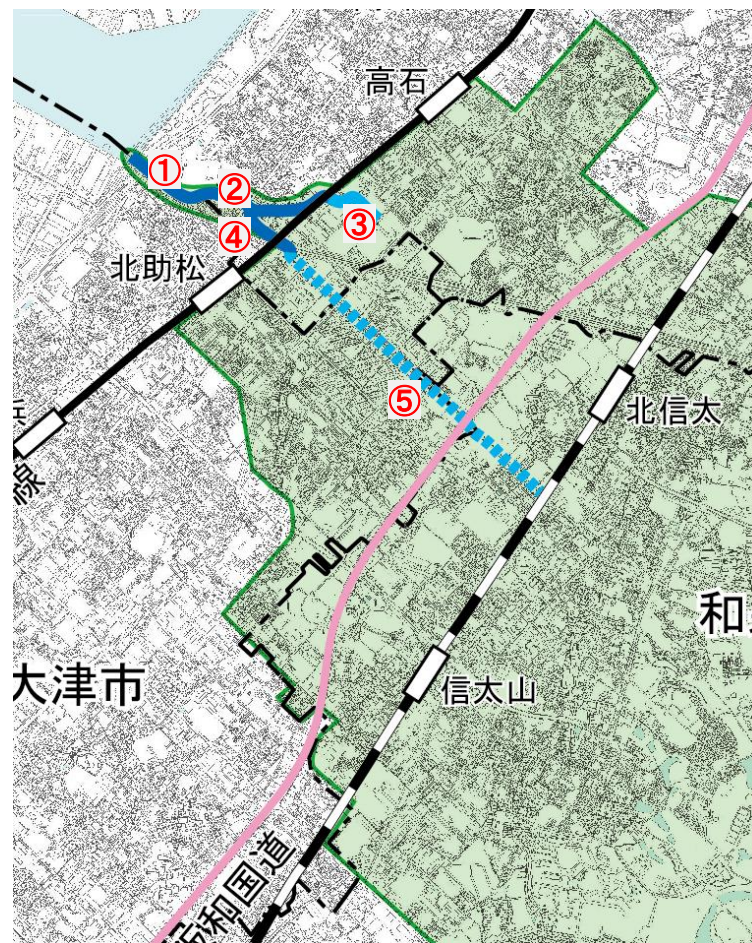
### (1) 流域の特性

- 気候は、温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属し、年平均降水量は全国平均と比較して少ないです。
- 王子川の流域は、南東部の丘陵部を除きほとんどが市街地で、自然な植生や生息動物は、わずかとなっています。

- 魚類：ボラなど
- 鳥類：サギ類など
- は虫類：イシガメなど



## (2) 河川の特徴



### 《王子川》

- 川幅10～25mです。
- 王子川防潮水門から南海本線鉄道橋までは、防潮対策によりコンクリート構造の高い護岸が設置されており、沿道から川が見えにくい状況となっています。
- 小高石橋付近では、周囲の建物や公園と調和のとれた道路整備がなされ、良好な景観を形成しています。

### 《新王子川》

- 川幅25～30mです。
- 新王子川の上流側は、王子川都市下水路となっています。

## 6-2. これからの王子川流域での取組みについて

### (1) 流域の将来像

#### ●流域各市の総合計画

- ▶高石市：第4次総合計画  
＝市民主体のやさしさと活力あふれる”健幸”のまち
- ▶泉大津市：第4次総合計画  
＝住めば誰もが輝くまち 泉大津 ～なんでも近いで ええとこやで～
- ▶和泉市：第4次総合計画  
＝人がきらめき 共に育む 元気なまち・和泉

#### ●流域の位置づけ

- ▶高石市のシビックセンター、泉大津市の地域拠点及び和泉市の中心的なエリアに隣接しています。
- ▶良好な住環境のまち、利便性が高く快適なまちといった位置づけがなされています。

#### ●流域の防災面の考え方

- ▶地震や風水害に対する意識啓発や防災コミュニティの育成といった市民活動と一体となった災害に強いまちづくりを目指しています。

### <王子川流域の将来像>

- ・王子川流域においては、集中豪雨、台風等による高潮、さらには、近い将来発生すると予測されている東南海・南海地震による津波等に対応し、既に形成されている市街地での安心・安全なまちづくりが求められています。

## 6-2. これからの王子川流域での取組みについて

### (2) 治水の現状と課題・目標・実施

	現状・課題	目標	実施
洪水	<p>◆王子川 時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水で床上浸水以上の被害が想定されていません。</p> <p>◆新王子川 時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水で床下浸水の被害が想定されていません。</p>	現状の治水能力を維持します。	
高潮	<p>◆伊勢湾台風規模の超大型台風が室戸台風のコースを通過して、満潮時に来襲した場合を想定した高潮： 安全に対処できる対策（防潮水門、排水機場）が完成しています。</p>	現状維持	



## 6-2. これからの王子川流域での取組みについて

### (2) 治水の現状と課題・目標・実施

	現状・課題	目標	実施
地震	<p>◆「南海トラフ巨大地震」の被害想定： 王子川排水機場の耐震補強を着実に 推進していく必要があります。</p>	<p>◆L1（レベル1）地震動※1 引き続き現状を維持 ◆L2（レベル2）地震動※2 ○王子川排水機場 地震後に排水機場としての機能が 応急復旧により速やかに回復でき ることを目標</p>	<p>◆L2（レベル2）地震動 ○王子川排水機場 排水機場としての機能を 応急復旧により速やかに 回復できる性能を確保</p>
津波	<p>◆「南海トラフ巨大地震」の被害想定： 王子川水門の津波波力への対策を着実に 推進していく必要があります。</p>	<p>◆L1（レベル1）津波※3 防御できる整備がなされており、 引き続き現状を維持 ◆L2（レベル2）津波※4 施設の流出等による二次被害の 発生を防ぐことを目標</p>	<p>◆L2（レベル2）津波来襲時 水門閉鎖によって水門が 損傷した場合等でも流出 による二次被害を防ぐ対 策を実施</p>

※1 構造物の供用期間中に発生する確率が高い地震動。具体的な地震動を想定していませんが、従来の耐震設計で考慮されているレベルの地震動を想定しています。

※2 対象地点において現在から将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震動。

内陸直下型はマグニチュード7クラス、海溝型は南海トラフ巨大地震でマグニチュード9クラスと定義されています。

※3 発生頻度は最大クラスの津波〔L2（レベル2）津波〕に比べて高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波と定義され、百年から百数十年に一度の頻度で発生する東南海・南海地震（マグニチュード8クラス）による津波を想定しています。

※4 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波と定義され、千年に一度、もしくはそれ以上の間隔の頻度で発生する南海トラフ巨大地震（マグニチュード9クラス）による津波を想定しています。

## 6-2. これからの王子川流域での取組みについて

### (3) 河川環境の現状と課題・目標・実施

	現状・課題	目標	実施
水質	王子川の水質は、新王子川橋において平成5年度にBOD（年平均値）46mg/lでしたが、平成24年度には4.6mg/lに改善されてきています。 ボックス河川である新王子川の上流端付近には、昭和61年度にゴムカーテンを設置し、臭気防止に努めています。	王子川の水質は近年改善傾向にありますが、さらなる浄化等に努めます。	地元住民や下水道管理者との連携のもと、水質浄化や臭気対策に努めます。
水利用	王子川、新王子川ともに、かつては上流部において農業用水路として利用されていましたが、現在は、両河川とも、農業用水等への利用はほとんどなされておらず、市街地における排水路としての機能が中心となっています。	今後とも、適正な水利用を目指します。	—
空間利用	既成市街地における貴重なオープンスペースとなっています。	貴重なオープンスペースの保全に努めます。	流域市による沿川のまちづくりとあわせ、流域市や地元住民と協働して、河川環境の整備と保全に努めます。

## 6-2. これからの王子川流域での取組みについて

### (3) 河川環境の現状と課題・目標・実施

	現状・課題	目標	実施
自然環境	<p>流域は、南東部の丘陵部を除き、ほとんどが市街化されており、<u>自然な植生や生息動物はわずか</u> <u>なっています。</u></p> <p>河口付近で海水の遡上に伴い多数のボラが、また、王子川と新王子川の合流点付近で餌をとるサギ類が、さらに王子川河口から小高石橋にかけて多数のカメ（イシガメの一種）が確認されています。</p>	現在の自然環境の保全に努めます。	大阪府自然環境保全条例における河川の緑化基準に基づいた河川環境の整備に努めます。
景観・親水性	<p>河口域には、高潮対策事業における防潮水門が設置され、両岸はコンクリート構造の堤防が整備されています。</p> <p>コンクリート三面張りの単断面構造であり、川幅も狭く水路といった印象が強いが、<u>既成市街地におけるオープンスペースとしての景観を有しています。</u></p>	現在の景観の保全に努めます。	現在の景観の保全に努めます。

## 6-2. これからの王子川流域での取組みについて

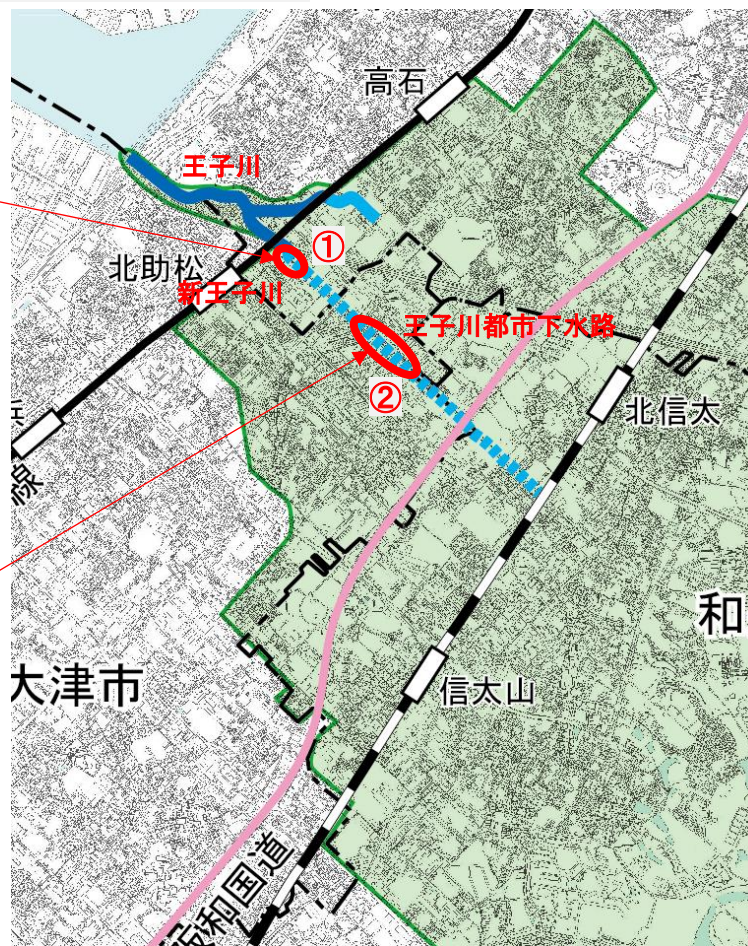
### (4) 河川の維持管理対象施設と実施内容



① 浚渫状況写真（新王子川）



② 浚渫状況写真（王子川都市下水道）



#### 《水系全体》

- 堤防および護岸等、河川管理施設の本来の機能や河道における所定の流下能力を確保するため、河道管理施設の等の点検を行うとともに、その結果に基づき必要な箇所においては、堆積土砂の除去や堤防及び護岸の補修に努めます。
- 堆積土砂の除去については、臭気対策の観点からも、下水道管理者による都市下水道での取組みと連携して、必要に応じて実施していきます。

## 6-2. これからの王子川流域での取組みについて

### (5) 地域や関係機関との連携

- 下水道管理者、消防、警察などの関係機関との連携に努めます
- 下水道管理者との情報交換で内水浸水被害の軽減に努めます
- 河川愛護活動の普及に努めます

### (6) 河川情報の提供

- 河川氾濫や浸水に対して
  - 現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
  - 必要な情報の提供・伝達
  - 住民の防災意識の醸成
  - ホームページでの情報提供

# 7. 大阪府などによる情報提供

- 大阪府では、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしていきます。

## 防災情報

### 【おおさか防災ネット】

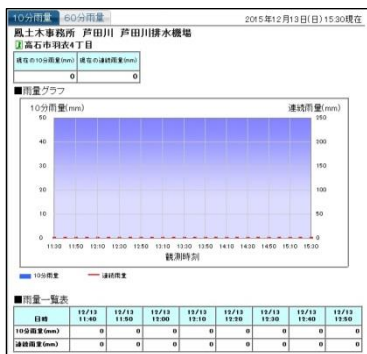
<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

### 【大阪府都市整備部河川室 河川防災情報】

<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>



防災情報を携帯電話で入手できます。下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

### 防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。  
[touroku@osaka-bousai.net](mailto:touroku@osaka-bousai.net)



### 川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。  
<http://i.river.go.jp/>  
直接アクセスしてください。



### 大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。  
<http://www-cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>  
直接アクセスしてください。



雨量、流域内主要河川の水位状況などを確認できます。